

## ラウル株式会社代表取締役 江田 健二氏

---

### Q1 環境コンサルのお仕事とはどういうものですか？

企業の中には、どうやって環境面で社会貢献活動をしていけばよいかわからない場合も少なくないですね。例えば、再生可能エネルギーである太陽光発電や風力発電にどうやって関わればよいか、どういった団体と組んでいけばよいか、どう世の中にPRしていけばいいのかなど、そういった部分もアドバイスさせていただき、ご支援させていただいています。

脱炭素やCO2フリーの企業をつなぐといったこともやらせてもらっています。社内における環境面への理解を浸透させることも重要で、ひいてはSDGsの下支えができるような取り組みにつながっていければと思っています。社外へのPRも大切で、社会貢献においても将来性がある企業は、上場している会社は株価が上がり、資金調達もしやすくなります。また、良質な人材も集まりやすくなります。社会貢献をして得をするという仕組みを存分に生かしてもらうことをアドバイスしています。

具体的には、日本中にビルをお持ちの不動産会社のクライアント様で、将来的にCO2フリーにしたいというニーズに対して、5年10年かけてCO2フリーのビルにしていくというプロジェクトを全面的に支援させていただいたり、全国のフィットネスクラブを運営されているクライアント様が、全て店舗をCO2フリーにしたいというニーズなどを支援させていただいています。

### Q2 今から17年も前の2005年に脱炭素に目を付けられたのがすごいのですが、経緯などをもう少し詳しく教えていただけますか？

元々あまり人がやっていないことに、難しいことに挑戦するのが好きなんです。環境やエネルギーの分野は、ビジネスとしては収益化しやすいジャンルではないのですが、当時は自分では必要だと思うのに誰もやっていないというところに惹かれました。

競争相手があまりいないので自分のペースでやれそうだという感覚もありました。その後、大震災が起こり、エネルギー問題に大きな関心が寄せられる社会になるということは、当時は全く想像していませんでしたね。

### Q3 これまでかなりの量の出版をされてきたとのことですが、どういった想いで執筆活動をされてきているのでしょうか？

これまで20冊の本を書いてきましたが、100歳まで生きて、100冊の本を書き、100万人に影響を与えることが私の夢です。いつまでも学び、沢山の人のいい影響を与えたいと思っています。でも、その前に楽しく生きていきたいですね。

本を書く良さは、誰にも影響されないことです。利益を出そうとすると市場環境の影響を受けますが、本の執筆自体は全く受けません。淡々と取り組めるのも自分の性格に合っている気がします。

---

**Q4 富山の砺波で、エジソンみたいな発明家になりたいとの気持ちを持たれたとのことですがどのような思いだったのですか？また、今後の展望もあればお聞かせください。**

難しいものに挑戦したいという気持ちでしょうか。誰もが気づかなかった、「あつたらいいな」を作るという発想です。環境・エネルギーの分野は、特定かつ明確な解がなく、人生をかけても飽きないだろうと思いました。

ここまできてもまだまだだなと自分では思っていて、業界でも30%くらいを把握している人をまだ見たことがないので、生きている間にはそこまでいけたらいいなと思っています。

**Q5 朝活されていると伺いましたが、具体的にどんな効果がありますか？**

6時に起床しています。朝の方が集中できるので、様々な本を読んで気付いたことをメモ用紙に書いて、日によってまとめ直していくことをやっています。午前中は、自分なりのアウトプットと体調管理に使うことが多いですね。

気が付けば5年以上も朝活しています。2008年からノートに自分の考えを書き始めていますが、若い時は朝でなくてもよかったんですね。ただ、集中力がいるので、最近は朝から午前中にかけて行っていて、なるべく午前の予定は入れないようにしています。こうした日々の積み重ねが日常の業務や本の執筆に生きています。

**Q6 そんな江田さんの強みは、ご自身でどこにあると思われませんか？**

私は大きな組織に所属していません。また、電力、ガスなどのエネルギー分野の仕事は、政府系や大学などのバックグラウンドがあつてやられている方が多いのですが自分にはそれがありません。ただ、それ故に、こうじゃないかと言いやすい立場を確立できた気がしています。大きな組織が強かった業界ではありますが、ようやく個人がそれぞれに声を上げる段階にシフトしている気がしています。

組織や自分たちの意見がどうしても強くなりがち傾向がありますが、日本全体としてどうなのかという視点は特に大事にしていきたいと思っています。

また、うまくいかない時は、流れに身を委ねることも大事だと思って仕事しています。

**Q7 業界の課題やお困りごとは何でしょうか？**

課題は時間と共に変わります。欧米は脱炭素を進めようという気運が社会的に高まっていますが、日本では一気にシフトするのは難しい面もあります。一気にゴールはできないけれど、まずはこの山を越えるみたいな、そんなインセンティブを与えられる仕事ができたら嬉しいですね。

---

**Q 8 江田さんから世界の女性リーダーに対して、私たちが地球規模で行動できることをわかりやすく伝えてもらうとしたらどんなアドバイスができますか？**

私は食べるのが好きなのですが、お寿司、イタリアン、さらにはインド料理など色んなジャンルがあるじゃないですか。その中で何が好きっていう好みがあり、食料は世界とつながっていると思うんです。実は、これエネルギーの話とも通じているのわかりますか？

同じように世界とつながっていても、食については好み可言えるんですが、エネルギーについては気軽に言えていない気がするんです。皆が気軽に会話することで建設的な解決策につながりますので、まずは関心を持ってもらうこと、そして気軽に会話できる環境を作っていくことが大事だと思います。

特定の力を持つ方が勝手に決めてしまうという構造を許すのはよくないと思うんです。和食大好きな偉い人がいるから和食偏重の世の中になってはいけないのと同じです。

業界の中で言いづらい雰囲気を取り除くのが私の仕事なのかもしれません。融和的に(笑)

**Q 9 視野をアジアに広げて、現状と未来について江田さんなりのお考えはありますか？**

環境エネルギーのジャンルで日本がアジアに貢献できることは沢山あると思います。方向性としては、アジアと一緒に盛上げていく大切なジャンルになると思っています。インド、フィリピン、インドネシアなど、経済成長を遂げつつある国が増えてきています。インドは2030年には日本のGDPを超えと言われていますが、その分環境問題も深刻化します。

豊かになることは権利だからこそ、そのサポートをしながらも、日本は、経済成長の中でCO2を出さないようにする取り組みや環境汚染の問題を乗り越えてきた実績がありますので、人生の先輩として、これから大きくなっていくであろう後輩に伝えるように、技術だけでなくルール面についてもアドバイスできることがあるのではないかと思います。

**Q10 具体的に日本からアジア、世界へ展開できる技術はどのようなものがあるのでしょうか？**

一例ですが、紙のような太陽光パネルの技術があります。透明フィルムもありますので、窓に貼って発電できる時代が近づいています。鉄は作るのにCO2を大量に出しますが、植物由来のセルロースナノファイバーで作ると植物の素材で鉄並みの強度が確保できます。

また、究極的には、CO2を使ってコンクリートの材料にする技術もあります。カーボンリサイクルというジャンルで、国が支援して実用化できればアジアに展開できると思います。我が国で取り組みが進む技術を環境問題の解決にも活かせるとよいなと思っています。

**Q11 環境業界は、男性社会のようにも感じられますが、こうした状況についてはどのように受け止められていますか？**

今までも多数の講演をしています。女性の姿は本当に数名です。エネルギーを使用するのは、男女差がないはずなので、女性の参画が今後期待されています。それには、年齢を超えて互いに歩み寄りが必要で、女性側からの意見も尊重し、男性側も違いを受け入れる融合的視点が必要で、双方の参画と、双方の理解が必要だと考えています。

## Q12 次世代の育成について、何かアドバイスがあればお願いします。

これまで携わったことのない人にとっては、ハードルの高い、見えない壁のある業界かなと思います。なので、もっと自由闊達にさまざまな方々がエネルギーの議論ができるようにしたいと思います。女性だけでなく、10代20代の若者にも、詳しく知らなくても発言していいんだよって雰囲気を作れたらと思っています。100のことを知っている人が100のことを伝えるのではなく、いろんな人が、いろんな意見を、好きな食べ物のように、ディスカッションできるような環境が大切ではないかと思うのです。そうすることで、一人一人が環境やエネルギーに興味を沸いて、地熱を勉強してみようかなと、そういったきっかけにもなると思うんですね。

## Q13 こうした時代に女性リーダーに求められることはなんでしょう？

新たな視点ですね。男性社会と言われるエネルギー業界ですが、誰かが儲かるというのではなく、より安全なエネルギーを作っていくべきという方向性が大事です。硬直的な捉え方を打破できる女性ならではの関わりに期待しています。古いものを壊すのは、すごく大変な労力がかかりますが、未来の希望に向かっていくという、前向きなエネルギーにも期待しています。北欧は、エネルギー会議も、男女皆で話し合っ、今のエネルギー体制になったという経緯があるので、日本もみんな話し合える環境を作っていけたらいいのではと思っています。なんでもトップが決めていた時代から、これからはみんなで決めていくという時代が変わってきていると思っています。電気自動車、電気が無線で飛ぶ技術などもできてきているので、例えばドラエモンの世界のように、実は電気って今までとは違う使い方でもできるということ面白く、ワクワクする未来像をざっくばらんに語っていき、そこから必要なものを逆算して作っていく、だからこそ生み出される技術もあるのではないかと考えています。

## Q14 最後に、AWLF への応援メッセージをお願いします！

自分のこれまでの仕事は、日本の環境・エネルギー業界に特化してきたこともあり、なかなか海外まで範囲を広げられてこなかったんですが、アジア女性リーダーズフォーラムのアドバイザーになったこともきっかけに、自分のやってきたことをアジアから世界へ範囲を広げて、いい影響を与えていけたら良いなと感じています。応援のメッセージというよりも、ぜひ共に活動しながら、一緒に成長していければと思っています。



インタビュアー：アジア女性リーダーズフォーラム 代表理事 佐々木亜衣



### <江田氏 プロフィール>

富山県砺波市出身。2000年に慶應義塾大学経済学部卒。東京大学 Executive Management Program (EMP) 修了。アンダーセンコンサルティング（現・アクセンチュア日本法人）に入社。エネルギー・化学業界を担当し、電力会社や大手化学メーカーの業務改善プロジェクト等に参画した。ITコンサルティング、エネルギー業界の知識を活かし、2005年にRAULを設立し、同代表取締役社長に就任する。一般社団法人エネルギー情報センター理事、一般社団法人エコマート運営委員、一般社団法人CSRコミュニケーション協会理事、一般社団法人つなぐ未来研究所理事、環境省 地域再省蓄エネサービスイノベーション促進委員会委員等を歴任。本業の傍ら、環境・エネルギーに関する執筆・講演活動を行っている。

RAUL 株式会社代表取締役、一般社団法人エネルギー情報センター理事、一般社団法人CSRコミュニケーション協会理事、環境省 地域再省蓄エネサービスイノベーション促進委員会委員（2019年）、Asia Women Leaders Forum アドバイザー